

立命館大学校友会主催 東日本大震災復興支援事業
東北応援ツアー 福島県訪問報告

立命館大学経営学部 昭和43年（1968年）卒業
吉野 久幸

「忘れないでほしい」この言葉が脳裏から離れません。

2006年経済学部卒業 遠藤雅彦校友に壊滅した自宅の地元を案内してもらった時の最後に彼が、応援ツアーに参加した我々に語りかけたメッセージです。太平洋に面した福島県いわき市豊間地区で自宅が津波で全壊流失、幸い家族は遠藤校友の判断で無事ではあったが、東京へ自主非難し、自らは単身大阪で関西への避難者のサポートで先頭にたち奮闘中である。私には想像すら出来ない激変の人生です

1年半たった今、現地豊間に立った時、ひとつの街全てが家の基礎コンクリートだけを残した想像を絶する風景に言葉が出ませんでした。そのなかには門柱だけを残した遠藤宅もありました。ところどころの無残な家の跡に花が置かれているのが我々校友30余名をよけい無言にしました。

ふりむけば穏やかな太平洋が、なにごともなかったように午後の柔らかい初秋の光を吸い込んでいました。それはあまりにも残酷な対比でした。

壊滅的な被害を受けた「アクアマリンふくしま」の驚くほどの復旧開園は少しだけ心を和らげてくれました。

復旧にあたっては日本動物園水族館協会が総力を挙げて応援したと聞きました。

この協会の会長は山本茂行校友（私の住む富山市の富山ファミリーパーク園長）です。

校友会発行「りつめい」でも紹介されていました。旧知ですが、ぜひお会いして話を聞きたいものです。

私は富山市のいわゆる都市型ホテルに勤務して44年、今年春に籍を離れましたが興味深く聞いたのは1泊2日で宿泊したホテルの支配人の地震の時のホテルの対応です。

ホテルの社会的使命のひとつに災害時は宿泊客は勿論、地域の人達の非難場所として受け入れ、備蓄する食糧、飲料と場所を提供すべしとの教えがあります。幸い私は在職中に体験はしませんでした。宿泊ホテルが奮闘した話は興味深く拝聴しました。

いままで私にとって福島は遠い存在でしたが、今回校友会の東北応援ツアーへの参加は大変意義あるものでした。感謝します。

わずかの義援金でなにげなく過ぎ去ってしまい、いつのまにか忘れていくところでしたが、福島はまた訪れたい土地となりました。いや訪れなければいけない地となりました。

遠藤雅彦校友の「忘れないでほしい」は私へのメッセージだからです。

2012/10/20 吉野 久幸

追記 *仮設住宅も車窓から見ましたが、案内によるとかなりの仮設住宅が使われていないとききました。我々には伝わらない地元の問題があると感じました。

*訪問した時と前後して災害復興特別予算の使途が問題になっています。悲しいことです。我々が経験したことの無い被害を受けた多くの人達は、時間がかかろうとも3.11以前よりよかったといえる時代が来ることを祈ります。